

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
朝のリレー	2	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)		【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
野原はうたう	2	目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
はじまりの風	5	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	【態】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
言葉 1	1	音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)		【態】声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
話の構成を工夫しよう	6	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ)	【態】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。
漢字 1	1	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
ダイコンは大きな根?	5	文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)	【態】文章の中心的部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
ちょっと立ち止まって	4	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)	【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
情報を整理して説明しよう	4	目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。
言葉 2	1	指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。	【知・技】指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
空の詩 三編	4	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。	【知・技】 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	【態】詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。
言葉 3	1	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)		【態】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。
比喩で広がる言葉の世界	2	比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。	【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)	【態】進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。

情報収集の達人になろう	3	目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】 ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。
本の中の中学生	3	学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ)	【態】進んで文章を読み、理解したことに基づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
大人になれなかった弟たちに...	4	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。	【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	【態】登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
星の花が降るころに	5	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ)	【態】進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
項目を立てて書こう	3	書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	【態】必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。
言葉4	1	共通語と方言の果たす役割について理解することができる。	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
聞き上手になろう	2	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	【態】進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
漢字2	1	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
[言葉]をもつ鳥、シジュウカラ	5	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	【態】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
根拠を明確にして書こう	5	根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	【思・判・表】「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	【態】根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
大阿蘇	1	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)		【態】進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
古典の世界	1	古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。	【知・技】古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ)		【態】古文を積極的に、繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
蓬萊の玉の枝	4	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ)	【態】進んで古文を音読し、今までの学習を生かして、描かれている古典の世界を想像しようとしている。

言葉の関係	3	単語の類別について理解することができる。	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ		【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。
今に生きる言葉	3	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものにしていく。(C1)オ	【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
不便の価値を見つめ直す	4	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	【思・判・表】「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C1)ウ	【態】必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。
話題や展開を捉えて話し合おう	4	意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。	【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A1)オ	【態】積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。
少年の日の思い出	7	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C1)エ	【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。
単語の性質	2	単語の類別について理解することができる。	【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ		【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
二十歳になった日	4	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C1)エ	【態】進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
構成や描写を工夫して書こう	5	書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ	【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B1)イ	【態】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。
漢字3	1	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたいことを思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字の成り立ちについて理解しようとしている。
一年間の学びを振り返ろう	5	目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A1)ウ	【態】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。
ぼくがここに	3	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものにするすることができる。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かかなものにしていく。(C1)オ	【態】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
国語の力試し	3	言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしたいことを思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ	【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C1)ア	【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。

教科	国語	学年	第2学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
見えないだけ	2	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】 語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)		【態】 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
アイスプラネット	5	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。	【知・技】 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)	【思・判・表】 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C1)ア)	【態】 登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
単語をどう分ける？	2	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。	【知・技】 単語の活用、助動詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ)		【態】 学習課題に沿って、積極的に自立語について理解を深めようとしている。
魅力的な提案をしよう	5	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。(【知・技】 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)	【思・判・表】 話すこと・聞くことにおいて、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。	【態】 自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。
枕草子	3	現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を学ぶことができる。	【知・技】 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C1)オ)	【態】 文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。
クマゼミ増加の原因を探る	5	文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。	【知・技】 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)	【思・判・表】 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C1)ア)	【態】 積極的に文章と図表などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
情報を整理して伝えよう	5	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。	【知・技】 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)	【思・判・表】 「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア)	【態】 多様な方法で集めた情報を粘り強く整理し、学習の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしようとしている。
漢字1	1	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)		【態】 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
短歌に親しむ	5	短歌を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)	【思・判・表】 「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C1)エ)	【態】 表現の効果について進んで考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
言葉の力	2	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	【知・技】 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)	【思・判・表】 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C1)オ)	【態】 文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
言葉1	1	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)		【態】 今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な語句、抽象的な概念を表す語句などについて理解しようとしている。

デジタル市民として生きる	3	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ)	【態】複数の情報を進んで整理しながら適切に読み取り、学習課題に沿って目的や状況に応じた情報収集のしかたについて考えをまとめようとしている。
翻訳作品を読み比べよう	3	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)	【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)	【態】表現の効果について進んで考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。
ヒューマノイド	4	登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)	【態】登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。
字のない葉書	3	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)	【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)	【態】文章の構成や表現の効果について進んで考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。
表現を工夫して書こう	3	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	【態】自分の考えが伝わる文章になるように積極的に工夫し、学習課題に沿って手紙や電子メールを書こうとしている。
表現の効果を考える	1	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)	【態】進んで文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。
言葉2	1	敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。	【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。
聞き上手になろう	2	言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	【態】論理の展開などに注意して粘り強く聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出すインタビューをしようとしている。
漢字2	1	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)		【態】積極的に同訓異字や同音異義語を理解し、学習課題に沿って漢字を読んだり書いたりしようとしている。
モアイは語る	5	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(C(1)エ)	【態】論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
適切な根拠を選んで書こう	5	伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ)	【態】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。
月夜の浜辺	1	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)		【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
平家物語	1	現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。	【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)		【態】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
扇的	3	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)	【態】登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
仁和寺にある法師	4	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)	【態】積極的に知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
漢詩の風景	5	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。	【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ)	【態】進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
君は「最後の晚餐」を知っているか	3	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)	【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ)	【態】進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。

立場を尊重して話し合おう	5	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ)	【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。
走る。走らない。走ろうよ。	2	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に用言の活用について理解しようとしている。
「自分らしさ」を認め合う社会へ	2	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)	【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。
走れメロス	8	登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)	【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)	【態】登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力や文章にまとめようとしている。
一字違いで大違い	1	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。(1)オ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。
描写を工夫して書こう	6	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)	【思・判・表】「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	【態】粘り強く描写を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
言葉3	1	話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。	【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。(1)イ)		【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。
漢字3	1	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)		【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
国語の学びを振り返ろう	4	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ)	【態】粘り強く国語を学ぶ意義を考え、今までの学習を生かしてコピーにまとめてクラスで交流しようとしている。
鍵	3	詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)	【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)	【態】詩を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。
国語の力試し	3	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をjえて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。	【知・技】類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。(1)エ)	【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)	【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。

教科	国語	学年	第3学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界はうつくしいと	1	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	時に用いられている語句や表現に着目して考えている。		進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。
握手	5	文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。	抽象的な概念を表す語句などを用いて、登場人物の人物像を表している。	文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。	物語の展開のしかたを粘り強く捉え、今までの学習を生かして読み深めた感想を交流しようとしている。
[聞く]	1	相手の意見を聞き、適切さを判断するために、どのような点に注意して聞いたかを挙げる。	根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。	多様な考えをもつ聞き手の存在を想定しながら、意見と根拠、理由づけの適切さを判断し、改善策を検討している。	聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
文法 1	1	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。	既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。		助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして設問に取り組もうとしている。
説得力のある構成を考えようスピーチで心を動かす	4	自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫することができる。	情報の発信者・出典、調査方法、情報の数などが適切か確認して、必要な情報を集めている。	聞き手の興味を引く問いかけや強調表現を取り入れたり、聞き手の反応に応じて話の内容を補足したりするなど、工夫して話している。	相手を説得できるように粘り強く論理の展開などを考えて話の構成を工夫し、学習の見直しをもって自分の考えを伝えようとしている。
言葉 1	1	相手や場にあふさわしい言葉遣い・表現を選ぶために、何に気をつければよいかを確かめる。	敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。		相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
学びて時に之を習ふ ——「論語」から	4	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。	→教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。	人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。	人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。
作られた「物語」を超えて	3	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。	ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、「具体と抽象」の関係を理解している。	論説の特性を踏まえ、「具体と抽象」の関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。	進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
思考のレッスン	1	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。	具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。		具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。
論理の展開を意識して書こう	2	文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。	資料から読み取った事実の中から、自分の意見を支える適切な根拠を選んでいく。	説得力のある文章にするために、論理の展開や意見と根拠、その結び付きを考えながら、文章の構成を工夫している。	論理の展開や意見と根拠、それらを結び付ける「理由づけ」などを粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある小論文を書こうとしている。
漢字 1 熟語の読み方	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。	漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
俳句の可能性	4	表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。	俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。	「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。	進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
言葉の釣り糸を垂らす	3	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。	文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。	筆者の「書く」ことに対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。	筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。

言葉 2	1	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。	和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けしている。		進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。
実用的な文章を読もう	2	目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。	発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。	発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。	観点ごとに情報を整理し、情報の客観性や信頼性を確認している。
情報整理のレッスン		情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。	情報の発信日時、発信源、情報を伝える目的などの観点から、情報の信頼性を確認している。		積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解し、学習したことを生かして問題に取り組もうとしている。
読書を楽しむ	1	自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。	読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。		進んで読書の意義と効用について理解し、学習の見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
「私の一冊」を探しにいこう	1	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。	本のさまざまな探し方について理解し、今後の読書生活への生かし方を考えている。	登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評などにまとめている。	】進んで本の探し方について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。
挨拶	2	詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。	語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈の中で意味や効果を考えている。	→現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対する自分の考えをまとめている。	詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
故郷	5	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。	文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。	「私」が考える「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。	文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
[推敲] 論理の展開を整える	1	関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。	「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」など情報と情報との関係に着目しながら、課題に取り組んでいる。	論理の展開について、読み手からの助言を踏まえて自分の文章のよい点や改善点を確かめ、必要に応じて整えている。	目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。
言葉 3	1	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語の意味や使い方を調べたりしている。		慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。
聞き上手になろう	2	提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。	対談の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。	話の展開を予測しながら聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。	話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。
漢字 2	1	◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。	漢字の造語力を意識しながら、漢字の意味を理解し、読んだり書いたりしている。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
複数の意見を読んで、考えよう	3	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。	一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。	観点を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの見方や考え方について考えている。	三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
考えを効果的に伝えよう	2	論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。	「意見と根拠」「具体と抽象」など、情報と情報との関係に関する知識を生かして論理の展開を考えている。	読み手からの助言を踏まえて、自分の批評文における批評の観点や表現、論理の展開などのよい点や改善点を見いだしている。	自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。
文法 2	2	単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解することができる。	言葉の単位、文の組み立て、単語の分類、自立語、用言の活用、付属語など、3年間で学習した文法の内容を理解している。		単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。

聴きひたる 初恋	2	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	語句や表現に着目したり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら詩に描かれた情景や心情を想像している。		進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
和歌の世界	2	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。	「和歌の世界」と「古今和歌集 仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や歴史的背景、和歌に対する古人の思いを捉えている。		進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
君待つと	3	和歌の表現のしかたについて評価することができる。	自分が注目した表現を引用しながら、和歌を評価している。	三つの歌集に収められた和歌を比較し、特徴的な表現やその効果について、評価している。	進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
夏草	2	古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりすることができる。	歴史的背景に注意して作品を読み、作者が何に感動したのかを理解している。	現代の価値観と比較したり、作者が感動した歴史的背景を確かめたりして、作者のものの見方や感じ方について考えている。	作者のものの見方や感じ方について進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして発表しようとしている。
つながる古典	2	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。	古典の名作の歴史的背景や後世への影響を知り、その一節を読んでいる。	自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。	長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かしてメッセージを書こうとしている。
それでも、言葉を	2	論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりすることができる。	抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。	文章を批判的に読んだり話し合ったりすることを通して、言葉に対する自分の意見を確立している。	言葉や社会、人間などについて粘り強く自分の意見をまとめ、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて話し合ったり発表したりしようとしている。
漢字3	1	第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。	漢字の組み立てと部首、音訓、成り立ち、熟語の構成、同じ訓・同じ音をもつ漢字、送り仮名、熟語の読み方、漢字の造語力など、3年間で学習した漢字の内容を理解している。		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
[話し合い(進行)]	2	進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。	抽象化の技能を生かし、複数の発言の共通点を抽出し、結び付けてまとめている。	合意形成に向けた話し合いを効果的に進行するための工夫について考えている。	積極的に進行の工夫とその効果を分析し、今までの学習を生かして話し合いの効果的な進め方について考えようとしている。
合意形成に向けて話し合おう	3	互いの考えを生かしながら議論や討論をすることができる。	提案の根拠に着目して妥当性を吟味したり、複数の発言の共通点を基に抽象化してまとめている。	→合意形成に向けて納得できる結論を出すために、提案の意義や実現性を検討したり、互いの発言を生かしたりして話し合っている。	合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
本は世界への扉	1	ノンフィクションを読み、理解したことや考えたことについて討論したり、文章にまとめたりすることができる。	ノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりしている。	読書を通して、考えたことや気づいたことを読書ノートに書いたり、語り合ったりしている。	進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、読んだ本や興味をもった本について語り合おうとしている。
温かいスープ	2	随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりすることができる。	文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。	自分の考え方や作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何かについて、自分の考えをまとめている。	人間、社会などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
アラスカとの出会い	2	随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりすることができる。	筆者の人生において、本との出会いがどのような意味をもっていったのかを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。	文章から読み取った筆者のものの見方・考え方や、友達との交流を受けて、自分の生き方について考えをまとめている。	人間、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
律儀な桜	2	随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりすることができる。	桜を巡る筆者の経験や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。	自分の知識や経験と結び付けながら文章を読み、人と自然に対する自分の考えをもっている。	人間、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして文章にまとめようとしている。
わたしを束ねないで	2	詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりすることができる。	選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。	詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会と人間、自分の可能性について考えている。	詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
三年間の歩みを振り返ろう	3	提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。	自分で設定したテーマと内容、目的に合う文章の種類を検討している。	自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。	粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達を発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。
初日	2	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。	選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。	詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、人間、社会、自然などについて考えている。	詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の内容について話し合おうとしている。

<p>国語の力試し</p>	<p>2</p>	<p>詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたなどを伝え合ったりすることができる。互いの考えを生かしながら議論や討論をすることができる。関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書くことができる。</p>	<p>ことわざや故事成語、四字熟語の意味や使い方を正しく理解している。</p>	<p>回想場面を織り込んだ展開のしかたとその効果について捉えている文章に表れている。 筆者の言葉に対する見方や考え方について、自分の考えをもっている。 話し合いの内容を分析し、それぞれの発言がどのような役割を果たしているか、捉えている。 意見と根拠、それらを結び付ける無理のない理由づけを示して、考えをまとめている。</p>	<p>粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。</p>
---------------	----------	---	---	--	--